

Oracle Management Repository (OMR) のインストール

EMCC (Oracle Enterprise Manager Cloud Control) 用のリポジトリ・データベース

EMCC (Oracle Enterprise Manager Cloud Control) を使用してオラクル・データベースを管理統括する場合には、管理対象データベースの属性および動作記録に関して収集した情報を保管するための保管場所であるリポジトリを確保する必要がある

これが、OMR (Oracle Management Repository) である

OMR は、OMS (Oracle Management Service) インストールより先に準備しておく必要がある

※ Enterprise Manager Cloud Control を構築するインストール・ウィザードにおいて、簡易インストール (単純構成) を選択して実行する場合には、空の Oracle データベースに対しオラクル管理リポジトリをウィザードの処理として生成していく

詳細インストール (拡張構成) を選択して実行する場合には、事前に構築されたオラクル管理リポジトリに対してウィザードの処理が行われるので、オラクル社提供のデータベース・テンプレートを使ってそれを生成しておく

【注意事項】

<https://dev.classmethod.jp/cloud/aws/oem-cloud-control-building-oms/> より

- ・ OMR は、OMS と同じサーバーにインストールさせることは可能
- ・ OMR で使用するデータベースは、Oracle Database Enterprise Edition が必須
- ・ OMR に対して、OMS から SYS ユーザーでの接続が可能であること

作成手順について

以下に、作成手順を記述する

参考 URL アドレス：

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/appdx_seed_db_template.htm

Oracle Enterprise Manager Cloud Control 基本インストレーション・ガイド

付録 C： データベース・テンプレートを使用した事前構成済のリポジトリ
でのデータベース・インスタンスの作成

データベース・テンプレートを使用して管理リポジトリを構築するときのパラメータが想定している EMCC が対象とするデータベース数の想定規模

デプロイメント・サイズ

| 指定パラメータ 想定項目 | 小 | 中 | 大 |
|-------------------|--------|-----------------|-------------|
| ターゲット数 | 最大 999 | 1000 から 9999 の間 | 10,000 以上 |
| 管理エージェント数 | 最大 99 | 100 から 999 の間 | 1000 以上 |
| 同時ユーザー・ セッション数 | 最大 10 | 10 から 24 の間 | 25 から 50 の間 |

手順 1. Oracle システムのインストール

1. - 1 システムのインストール

Oracle ソフトウェア単体でのインストールを行う

※ データベース・インスタンスを同時に作成しないこと

手順 2. インストール用ファイルのダウンロード

2. - 1 ファイルのダウンロード

<http://www.oracle.com/technetwork/oem/enterprise-manager/downloads/index.html>

2. - 2 ダウンロードしたファイルの解凍

注) 解凍したファイルには、管理するデータベースの『管理対象の数』の規模に応じた複数のファイルが存在する

.dbc ファイル データベース作成用テンプレート

.sql ファイル テンプレートから呼び出される設定内容定義情報

| ファイル名 | ファイルの中身 |
|---|---|
| 12.1.0.2.0_Database_Template_for_EM13_1_0_0_0_Large_deployment.dbc | 大規模デプロイメント用のデータベース作成テンプレート |
| 12.1.0.2.0_Database_Template_for_EM13_1_0_0_0_Medium_deployment.dbc | 中規模のデプロイメント用のデータベース作成テンプレート |
| 12.1.0.2.0_Database_Template_for_EM13_1_0_0_0_Small_deployment.dbc | 小規模のデプロイメント用のデータベース作成テンプレート |
| 12.1.0.2.0_Database_Template_for_EM13_1_0_0_0.ctf | 各規模の.dbc ファイルに共通に必要な.ctf ファイル |
| 12.1.0.2.0_Database_Template_for_EM13_1_0_0_0.dfb | 各規模の.dbc ファイルに共通に必要な.dfb ファイル |
| set_repo_param_12.1.0.2.0_Database_SQL_for_EM13_1_0_0_0_Large_deployment.sql | 大規模デプロイメント用のデータベース・パラメータを設定するための管理リポジトリを変換する.sql ファイル |
| set_repo_param_12.1.0.2.0_Database_SQL_for_EM13_1_0_0_0_Medium_deployment.sql | 中規模デプロイメント用のデータベース・パラメータを設定するための管理リポジトリを変換する.sql ファイル |
| set_repo_param_12.1.0.2.0_Database_SQL_for_EM13_1_0_0_0_Small_deployment.sql | 小規模デプロイメント用のデータベース・パラメータを設定するための管理リポジトリを変換する.sql ファイル |
| shpool_12.1.0.2.0_Database_SQL_for_EM13_1_0_0_0.sql | 各規模の.dbc ファイルに共通に必要な.sql ファイル (共有プール・サイズを設定) |

手順3. データベース・インスタンスの作成

3. - 1 Database Configuration Assistant の起動
3. - 2 データベースのテンプレートからの作成
「データベース・テンプレート選択」画面で、デプロイメント・サイズに合ったテンプレートを選択し、データベースを作成する

データベース作成上の注意事項

- ・ 「管理オプション」画面で、デフォルトで「Enterprise Manager (EM) Database Express の構成」オプションが選択される
必ず、この選択を解除する
- ・ 「データベース・コンテンツ」画面で、デフォルトで「次のスクリプトを実行」オプションが選択されている
このオプションは、必ず選択したままにしておき、スクリプトが実行されてデータベースに共有プールが設定されるようする
- ・ アカウントのロックを解除するオプションが表示されても、そのオプションは無視する
データベースの作成時にアカウントのロックは解除しないこと

手順4. オプティマイザ機能の無効化

https://docs.oracle.com/cd/E74608_01/131/EMBSC/install_em_exist_db.htm
より

4. - 1 初期化パラメータの変更

```
alter system set optimizer_adaptive_features = false scope = both  
sid = '*' ;
```
4. - 2 データベースを再起動

```
shutdown immediate ;  
startup open
```
4. - 3 変更されたかの確認

```
show parameter adaptive;
```

| NAME | TYPE | VALUE |
|-----------------------------|---------|-------|
| optimizer_adaptive_features | boolean | FALSE |